

那覇市総合計画審議会 第1回環境・都市基盤専門部会の概要

当部会で審議する施策は、41～55の15本となっている。今回は、41～48までの審議を行った。

次回は、残りの施策と施策体系や抜け落ちている施策についても議論を行いたい。

41 省エネを実践するライフスタイルへの転換を促進するまちをつくる

□指標「地球温暖化を防ぐための実践項目数」の単位がわかりづらいため、「個」から「項目」にした方が良い。

43 那覇らしい景観を実現し、次世代に受け継ぐまちをつくる

□施策概要において、「いかし」「いかす」と続くため、「固有の風土、歴史や文化を守り、それらをいかす」に修正した方が良い。

□取り組みの柱と方針に維持管理の必要ではないか。その視点があることで、次の世代へ引き継ぐ姿勢がはっきりと示される。

■維持管理はPDCAの観点からも必要である。

■赤瓦などの工事への助成件数が310件に達した場合、対象地区の何%になるか⇒次回報告

□首里金城地区、龍潭地区、壺屋地区を景観形成地区に指定していることについて、現状と課題に記述してもらいたい。

□課題で「モノレールを視点場とする家並み等を整備する必要がある」とあり、景観形成地区の新規指定について取り組みの方針に記述してもらいたい。

44 自然や水辺環境をみんなで育むまちをつくる

□首里の樋川（ひーじゃー）や湧水が枯渇している現状がある。水辺の環境の再現・復活させ、首里の歴史・文化を継承していく必要がある。大地の保水力、地下水の涵養に取り組むことで、緑化にもつながる。浸透性の舗装の道路整備、屋敷から道路側溝に流すのではなく自然浸透を促す等の取り組みが必要ではないか。

■地下水の実態調査をした事例は、事務局が把握している範囲では事例はない。

■河川の水質改善の観点から下水道の整備状況はどうなっているか。⇒下水道の人口普及率は98.1%、接続率（水洗化率）は95.5%

■中核市移行後、合併処理浄化槽への改良指導を行っているが、浄化槽設置者の台帳の整理に鋭意取り組んでいる。

■漂着ゴミの問題について記述した方が良いのではないか。

■漂着ゴミの観点からということではないが、ラムサール条約に登録されている漫湖の自然環境の保全のため、漫湖チュラカーギ作戦を実施して、清掃活動に取り組み、啓発を行っている。

凡例 ■・・・委員の発言概要 □・・・部会でのまとめ暫定案

45 魅力ある公園を整備し、みどりを守り・育て・活かすまちをつくる

- みどりを活かす視点から、「市民の主体的な～公園づくりを進めます。」については、取り組みの柱「公園・緑地の整備」とは別に記述して、既存公園の活用や維持管理の視点をより明確にしてもらいたい。
- 主要道路から少し離れた場所にある公園が十分に活用されていない可能性があるため、公園の表示等活性化させる取り組みも必要ではないか。

46 地域と共にみどり豊かな美しい道路空間のあるまちをつくる

- 道路ボランティアについて、企業への働き掛けや連携については、グリーンロードサポーターとして現在1社が活動中であり、2～3社が手を挙げている。
- 情報の共有など連携して効率よくできる仕組み、ボランティアへのインセンティブ、清掃道具、ゴミ袋の提供などの周知など取り組んでももらいたい。
- ICTを活用したボランティア団体を把握するための登録システム、活動状況を共有するためのSNSの利用、ボランティアを積極的に評価する仕組みなど「道路美化活動団体増加に向けた取り組み」に具体的な方針を示してもらいたい。

47 市街地の整備を促進し快適で魅力あるまちをつくる

- 災害時における重要な避難経路の確保のため、工作物（ブロック塀）に対する取り組みの方針を記述してもらいたい。
- 景観行政とリンクさせてブロック塀から生垣へ誘導するなど有効ではないか。
- 京都府の事例で誘導経路を優先して取り組んでいる事例もある。
- 耐震基準を満たしている特定既存耐震不適格建築物等の割合の目標値97%は、国のガイドラインに沿った目標値となっている。

48 誰もが移動しやすいまちをつくる

- モビリティマネジメント、フリンジパーキングについては、一般の方も理解できるよう注釈を付けてもらいたい。
- 「自転車道路」をキーワードとして盛り込んでどうか。具体的には、「徒歩や自転車で快適に移動できる『自転車道路等』のネットワークを構築するとともに」
- デマンドタクシー等の市内の公共交通の空白地帯に対する取り組み等は、モビリティマネジメントに包含されている。